

課題名	10年先を見据えた持続可能な集落の基盤づくり	地域づくり 安心・安全づくり	中丹東・西農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 集落営農組織の収益力向上による経営改善	(2) 普及指導対象 集落営農組織、地域営農組織等 8組織		
(3) 活動内容と成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に8組織へ訪問し、現状等を聞き取りや改善に向けた取組を展開。 (水稻栽培) ・M組織の水稻経営について、昨年度、経費で収入の半分を超えていた苗購入費抑制のため、発芽苗を購入管理することを役員に提案。試験的に未利用ハウスを活用し、育苗管理や水管理の講習を行い順調に生育した。来年度の取組については、費用対効果等について役員会で検討中。 ・米価下落に対応するため、地域住民を対象に地元産米の地元内流通についての意向アンケート調査を実施し、地域内で2,660kg、720千円の売上を上げることにつながった。 ・O組織では、低収の一要因が倒伏回避のための減肥と考えられたため、6～7月に追加穂肥の勉強会を2回実施した（生育診断の結果、追加穂肥を行ったのは1ほ場のみ）。 (小豆栽培) ・3組織を対象に昨年度の反省点を踏まえ、播種前の額縁明きよによる排水改善や病害虫対策等の技術情報を配布（計3回）した。現地巡回による適期の害虫防除の呼びかけや獣害対策指導の結果、各組織が目標とする収量が確保できた。 (獣害対策) ・K組織ではセンサーカメラを設置した。その映像を役員とともに確認し、電気柵の設置場所の変更や線の増設を行った結果、被害軽減と獣害対策の重要性を共有できた。 ・中丹野生鳥獣被害対策チームと連携する中で、侵入経路や被害状況の確認を役員と行い、電気柵の高さの修正など実行して以降は、小豆の被害は確認されなくなった。 			
(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等		
<要約> ①中丹の課題を克服するため、色々な工夫をされていると思う。若い後継者を増やすためには、収益の向上、利益の得る農業が一番の近道かと思う。 ②集落内のサラリーマンに土日の営農参加を呼びかけ、後継者として育成しようとしているが、収益性の高い農作物を導入し、意欲喚起することも必要と考える。	①②中丹地域で就農される若い農業者は、万願寺甘とう等の施設園芸を主力とされていますが、大面積をカバーする集落営農組織では、機械化体系が組める土地利用型作物が中心となっています。ご指摘のとおり、若い後継者を確保するためには、収量向上・有利販売によって既存の品目の収益性を高め安定させるとともに、将来的には、機械化が可能な紫ずきんなどを導入する必要があると考えます。また、初期投資の大きさなどで二の		

③売上や利益などを示していただかないと、経営が改善されたかどうか評価できない。

④米や小豆の生産性・品質の向上と販路開拓を行い、収益を安定的に得られることで担い手の育成をしていただきたい。

⑤地元産米の地域消費については、取組エリアの拡大を期待する。

⑥担い手の問題は、若手を育てる基盤がないからだと思う。若手の意見を大切にすべき。

⑦野生鳥獣対策は、集落での認知、対応の合意形成が大切で、この取組を継続することが地域コミュニティーの持続性の重要な指標だと思う。他地域や被害軽減の事例を共有し、活動が拡大

足を踏む就農希望者に対して、営農組織がパイプハウスを賃貸する「レンタルハウス事業(仮称)」のような提案ができればと考えております。

③経営改善においては、売上や利益などをもって評価することも大事ですが、今回は、収量の向上を目指す取り組みを入口として組織構成員の営農意欲の向上を図ることも狙いとしていました。今後は、ご指摘のとおり、栽培指導のみならず経営状況から改善されたかを把握していきたいと考えております。

④販路開拓については地域内での有利販売事例などがあり、このような取り組みを波及させることによって経営の安定化を図るとともに、地域の後継者候補の意向を聞き取って、後継者確保に繋がる組織の収益やその他の条件を明確にし、その実現に向けた支援を行いたいと考えております。

⑤地元産米の地域消費については、これまでの活動を通じて、一事例ができたと考えており、同地域でもっと広げるとともに、他地域でも事例紹介を行いながら、集落組織の経営基盤の強化に努めたいと思います。

⑥担い手の問題については、「若手が定着しやすいような環境を整える」段階以前の「若手の関心を集落営農組織に向け、参加させる」取組も充分でない集落営農組織が多く、まずは若手の参画を促すようなイベントの提案や自治会などの関連団体への働きかけなど取組への支援を先行したいと考えております。ご指摘のとおり、若手を育てる基盤づくりも当然必要なので、担い手候補となる集落の若手ニーズの聞き取りを行い、その結果をもとに集落営農組織に働きかけていきたいと考えております。

⑦野生鳥獣対策については、集落全体としての対応が必要であり、中丹地域でも地域住民との協力体制などの優良事例がいくつかあるため、情報共有の場や意見交換会の実施を検討しています。

することを期待する。

⑧ 獣害については、田を囲むだけでなく、なぜ山から降りてくるかを考えてみては？

⑨ 前年度の報告で農地のトリアージとして残すべき農地を選別して効率的で持続可能な農業を目指そうとしていたが、成果が出ているなら他地域への波及を考えても良いのではないか。

⑧ 獣が山から降りてくることについては、地域住民の家庭菜園等やその残渣などが餌場となっていることが一因となっています。そこで、情報の発行などにより、集落の餌場を無くす意識を高めるような取り組みを粘り強く行っていきます。

⑨ 農地のトリアージについては、度重なる獣害や収量が低いなど条件不利地での栽培であり、経費と比較しても収益が恒常的に極端に低かったため、役員と当該農地の扱いを協議し、保全管理に切り替えた地域もありました。
一方、農地の扱いについては各種の交付金が絡んでいる場合が多く、交付金を所管する団体との調整が必要になるなどの諸要因をまとめており、他地域の話し合いでも活用していくこととしております。